



## 仕事と家事、 育児を両立して 取得した グローバルホーム(株)の 福田和香子さん

福田和香子さん

家庭を持っている女性社員にとって、資格取得には幾つもの難関が待ち構える。社業のほかに主婦として家庭の一翼を守り、育児にも専念しなければならない。そんな合間を縫っての受験勉強となる。グローバルホーム株式会社(本社=埼玉県越谷市、中内セイコ代表取締役、1種B正会員、資本金1000万円)で、インテリアコーディネーターとして活躍している福田和香子さんも、そんな一人だった。超多忙な中で木造ハウジングコーディネーター(HC)資格試験を受験し、合格を勝ち取った。資格取得後は「お客さまへの説得力が一段と増したように感じています」と自信を持っている福田さんに、コーディネーターとしての業務や家庭との両立などを聞いてみた。

福田さんは、2007(平成19)年に武蔵野美術大を卒業してポラスグループに新卒で入社した。研究部門などを経て6年前からグローバルホームで注文住宅のコーディネーターやモデルハウスの内装を担当している。業務はこれだけではない。7人の委託コーディネーターたちへの仕事の割り振りや委託した図面チェックなど、八面六臂の活躍ぶり。

「常時30軒近くの案件を持ち、1年間に100棟前後のコーディネートと管理を担当しています」と多忙な毎日を送っているものの、忙しさをご本人は意に返さない様子だ。

### 7カ月の乳児をあやしなが 別室で受験、粋な計らいに感激

福田さんが木造HCの資格を取得しようと思ったのは子供が生まれて間もない産休中の時だった。「この期間を有効に活用し、受験勉強をして木造住宅の知識をもっと身に付け、仕事に役立てようと思いました」と受験のきっかけを振り返る。昼間は育児に専念して、同期入社で結婚したご主人の帰宅を待って、子供を寝かせながら一緒に勉強

に励んだ。

受験したのは2012(平成24)年のこと。しかし、ここで思わぬ障害が頭をよぎった。当時、子供は生後7カ月で一番手がかかる時期。子供と一緒に受験では、周りの受験者に迷惑をかけてしまうのではないかと考え、「一時は受験を断念しようと思いましたが」と福田さん。

断念してしまうと、今までの勉強が無駄になってしまう。思い余って木住協に相談したところ、「別室での受験許可という粋な計らいをしていただきました。私1人のために試験監督が立ち会ってくれ、子供をあやしなが親子が無事に終了することができました」と続ける。

結果は見事に合格、一般会場で受験したご主人も合格した。「別室での受験という特別な計らいは、本当にありがたかったですね。今でも感謝しています」と嬉しそうに話している。

### 受験勉強で身に付けた知識で説得力が増す

福田さんの仕事ぶりは定評がある。コンセントの位置ひとつをとっても、お客さま目線でのコーディネートを考えている。

例えばペットを飼っているお客さま。「コンセント位置を通常通りに設置すると、壁に犬が放尿してしまって電気がショートする場合があります。そのためペットを飼っているお客さまのご自宅は、少し高めにコンセントを設置することも提案します」といった具合だ。年配者のお客さまは腰を屈めて掃除機などのコンセントを繋げなければならず、身体に負担がかかるため、同様に高めの位置にコンセントを設置するという。

まだある。「両手いっぱい買い物袋を持って帰宅する主婦たちが比較的たくさんおられます。彼女たちの仕草を観察すると玄関スイッチを手で押すのではなく、荷物を持ったまま肘で押すことが多く、このため身長に合わせて少し低めに配置して提案することもあります」と福田さん。

接客では、初回にお客さまの好みなどを引き出すことを常としている。この初回折衝に失敗すると後々にクレームに発展することもある。

福田さんは「最近のお客さまはネットなどを利用して家造りの勉強をしています。私たちはお客さまを上回る知恵と知識を持っていないければ、納得していただけるコーディネーターはできません。間違った知識を持っているお客さまも比較的多く、正しい知識を伝えるのも大切と考えています」。

木造HC試験を通して培った知識が、こうしたコーディネーター業務に生かされているという。「お客さまと木や木材、木造住宅の話をする機会が多く、受験勉強で身に付けた知識によって説得力が増したように感じています」と福田さんは自信を持っている。

「私は建築現場に行くのが好きで、担当した現場には何度となく足を運びます。中間立ち合いなど必ず立ち会い、配線などが指定通りになっているのかを確認することにしています。何事もなく引き渡しが終了すると、本当に安心します」

### 家庭を持つ女性社員には親族と企業 の理解が不可欠、時短勤務を活用し 保育園の子供を迎えに

福田さんの1日は早い。まだ辺りが暗い間に起床して、朝食の用意と弁当作りに励む。7時過ぎに子供を保育園に送り届け、そのまま出勤する。午前中は社内メールのチェックや委託コーディネーターからの連絡や指示、上司との連絡・相談などに費やされる。急ぎの業務を優先して、午後には担当物件のチェックなどと多忙な毎日を送っている。

子供の養育中ということから、午後4時30分までの時短

勤務制度を利用している福田さん。保育園の子供を迎えに行き、夕食の用意や子供との入浴、9時過ぎに帰宅するご主人を待っていると、ようやく長い1日が終わる。

休日は毎水曜日と日曜日だが、お客さまの都合で日曜日も出勤することも多い。「日曜出勤や残業で遅くなる時は夫の実家に子供を預け、義母に保育園に迎えに行ってもらっています。家庭を持つ女性が住宅企業で働くのには、親や夫の協力だけでなく、時短勤務の採用など会社の十分な対応も欠かすことはできませんね」ときっぱり。

### 資格取得が昇進などの判断材料に 次は照明コンサルタントを受験へ

福田さんは自宅の受験勉強以外に、電車での通勤時間を活用して勉強した。往復で約1時間20分。福田さんはその際の体験から、「テキストや問題集はずっしりと重く、座席で勉強するには大きくて、両隣の乗客に肩身の狭い思いをしました。章ごとに分冊するほか、鞆に入れられるようにサイズも小さくしていただければ、車中の勉強も効率が上がるはず」と提案する。コーディネーターだけでなく、どこまでも利用者目線を追求する。

仕事上の福田さんの夢は、「満足のいく展示場モデルのインテリアや空間デザインを行いたい」ということ。プライベートでは年1回の家族旅行を継続すること、「購入してリノベーションした一戸建ての既存住宅を、安全でさらに暮らしやすい住まいにすること」と強調する。このため、休日には近くのホームセンターに足を運び、さまざまな部・資材を購入して美装に取り組んでいるという。

きっと数年後には受験勉強で培った知識と知恵を基にした、理想の我が家が誕生するはずだ。

ポラスグループでは、毎年、新卒者などを対象に基礎知識の習得や資質向上を目的として木造HCの受験を勧めている。また、約100種類の業務に必要な資格制度を選択して、推奨資格として社員に受験を勧めている。資格にはそれぞれにポイントが付けられ、木造HCの資格を取得すると3ポイントが与えられる。

社員1人あたり7ポイント以上の資格取得が努力義務となっている。コミットメント制度も導入しており、宣言をした社員には勉強のために有給休暇も与えられる。受験費用などは原則自己負担だが、取得したポイントは昇進の際などの判断材料になっているという。

福田さんは次に照明コンサルタントの資格を取得することにしており、当分の間、業務と家事・育児の合間を活用した勉強の日々が続くようだ。